

## 第6回おごおい俳句&ウォーキングを行いました!

6月3日(土)、俳人種田山頭火ゆかりの地・小郡をウォーキングしながら俳句を楽しむ「第6回おごおい俳句&ウォーキング」を開催しました。

テーマは「**駅周辺を歩む**」です。当館文化財専門員が随所で説明しながら、新山口駅新幹線口前の山頭火像⇒風の並木通り⇒大正通り⇒旧山口大神宮高灯籠跡⇒小川の流れる道⇒小郡文化資料館を吟行しました。

汗ばむ陽気の中、風の並木通りや大正通りを巡り、新山口駅周辺の歴史や自然に思いを馳せました。



10:30頃に小郡文化資料館に到着し、休憩をとって、さっそく作句に入りました。11:30の投句締切を目指し、真剣な時間が続きました。

昼食をはさみ、いよいよ句会。小郡俳句同好会の方々にご指導いただきながら、とても和やかな会となりました。

当日は24名の参加があり、楽しい一日を過ごすことができました。

第六回おこおり俳句&ウオーキング（山口市小郡文化資料館）

平成二十九年六月三日（土）

25	緑陰を遠慮し反省山頭火	隆行
24	大正町トマトラーメンデビューかな	のりこ
23	夏暖簾老舗の軒の低さかな	紳子
22	若者は半袖足早自由通路	隆行
21	父の日や昭和の男号令す	延子
20	夏服を改札口の吐き出しぬ	富清
19	万緑にいつもの道も新たなり	元子
18	白くひっそり咲いてヤマボウシらし	健一
17	言霊は黄泉へかへりぬ蜻蛉生る	縁
16	山翁や夏雲を追ふ丸眼鏡	民江
15	この路地の名画座ありし街薄暑	伝子
14	木に近く歩む一日を風薫る	久子
13	万緑や山翁眺む旅の人	安子
12	初夏の日の驕り笠脱ぐ山頭火	紀子
11	人知れず立てるポストに青葉風	明広
10	駅員のしやがみ受け取る夏の朝	佳子
9	コンテナに夏の雲載せ貨車走る	紳子
8	片陰より菓子焼くる香街に入る	理英
7	万緑の木もれ日おどる白い道	美沙
6	風薫る緑の扇揺らめかし	教子
5	山頭火像前集合夏吟行	保江
4	大正通り右折昭和やみなみ吹く	てん子
3	新駅舎槐の花の風を呑む	民江
2	C・M・W誇りの古き町薄暑	路子
1	廃れゆく大正街や若楓	りょう子

50	薄暑中影を踏みく吟行す	安子
49	夏落葉うとみつ慕ふ山頭火	路子
48	夏の日のゆらぐレールはふるさとへ	美沙
47	垂直庭園滴りとほす駅通路	紀子
46	川風や生れし蜻蛉の尾に雫	久子
45	公園の植樹作業の素足かな	佳子
44	夏草の一片錆びし貨車過ぎぬ	理英
43	まつすぐな薫風風の並木径	路子
42	温故てふ名の文具店額の花	保江
41	アカシアの若枝も葉も緑して	佳子
40	幼子の自転車疾走青葉風	保江
39	石像の灼くるのみなり画廊跡	路子
38	駅前点呼とりみて青嵐	紀子
37	夏服や風の並木の登下校	安子
36	小郡まんぢゅう焼きあがる香も薄暑かな	久子
35	緑陰へつき出て白き消火栓	理英
34	垂直の壁のガーデン夏匂ふ	路子
33	五月晴れ屋号の残る映画館	良子
32	ビルの間に風の並木やもちの花	りょう子
31	夏帽とリュックと水筒空青し	佳子
30	ほかほかの大判焼や夏の空	てん子
29	集合の声の走れり夏帽子	理英
28	地下道の広く明るし新緑裡	佳子
27	夏帽の波おしよせて改札口	てん子
26	お持ち帰り出来ます夏の麺と風	理英

第六回おこおり俳句&ウオーキング（山口市小郡文化資料館）

平成二十九年六月三日（土）

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51
路地裏にあじさいの香と三輪車	並木通り白靴の紐揺れどおす	三角の街を歩けば燕飛ぶ	並木道新樹抜ければ南小	万緑に睨みを利かす老ポスト	もちの花星屑あつめ咲きにけり	吟行の町巡り果て見る青嶺	緑の壁心は登っている	すれ違ふ異国言葉や夏の駅	名画座のありき小路や青葉風	万緑に懷かれ朱き遙拝所	それぞれに思ひめぐらす花樽	待合室風小郡自由通路よろしく	今昔の大正通り額の花	山頭火の笠のでかさや青葉風	自由通路緑の壁の生き生きと	皿の音して六月のホテル街	滴りのブランの垂直庭園	笠をぬぐ山頭火へ礼つばくらめ	繰り返す案内の放送夏の駅	空青く心は歩く	六月の風と壁画の並木道	緑陰の保育士赤きルージユかな	花菖蒲シャッター守りて凜と立ち	三輪車夏風切つて腕白に
明広	伝子	隆行	富清	民江	紳子	延子	健一	佳子	てん子	教子	伝子	健一	保江	佳子	安子	紀子	縁	縁	保江	健一	のりこ	紳子	教子	のりこ

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76
山あじさい日恋ふ高さや駅通路	遠ざかる貨物列車に夏の雲	夏木立まっすぐ風の通学路	山翁像夏空背負ひ夢の旅	薫風や鳴物入りの駅通路	シャッターに蜘蛛の巣二つ三つかな	笠ねぎし山翁頭上雲の峰	その昔一面田植の駅広場	神戸よりレノファ応援草茂る	始発駅初夏のホームの輝けり	今昔の大正通り片かげり	今生れし蜻蛉に未知の空蒼し	蜻蛉生るコンクリートの壁掴み	交差する園庭の影枇杷孰るる	いにしへの七夕祭眼にうかぶ	垂直庭園小郡新名所緑の匂い	風薫る我等の声も街騒に	水門の錆しハンドル麦の秋	吟行や熟女の囲む花棟	夏の風楓の葉のかほりたち	万緑に架線潜りて列車延び	生け垣より身をのり出して寒天の花	陶板の小郡桜青葉風	駅の中壁に夏草旅の風	六月の風に木の名を尋ねけり
良子	明広	良子	明広	良子	教子	紳子	隆行	延子	元子	富清	紀子	久子	縁	のりこ	健一	延子	伝子	富清	のりこ	教子	安子	縁	りょう子	久子

